

「地域連携 ワーファリンパス」運用について

兵庫県立尼崎病院

ワーファリンパスの目的

本パスはワーファリン投与の適応のある患者において、病診連携をしながらワーファリンを導入または継続投与し、患者情報をお互いに共有することを主眼としております。ワーファリン投与量の調整も、原則的にプロトコルにのせることとし循環器専門外の先生におかれましても安心して不整脈患者の診療が可能となることを目的としております。

患者対象

対象となる患者は心房細動、深部静脈血栓症、肺塞栓、心室内血栓症などのワーファリンの継続投与を必要とする症例です。心房細動のワーファリン投与の適応はCHAD2スコアをもとに原則的に2点以上の症例で慢性、発作性は問いません。（医師の判断で適応ありと考えた2点未満の症例も含みます）

CHAD2スコアのそれぞれの項目と点数

- 心不全 1点
- 高血圧 1点
- 年齢 1点
- 脳梗塞の既往 2点

参考文献：

“Validation of Clinical Classification Schemes for Predicting Stroke: Results From the National Registry of Atrial Fibrillation”, JAMA2001;285(22):2864-2870

方法

ワーファリン導入適応患者に対してはまず当院で診察し、血液検査、心電図、心エコーなどを行い治療開始前の評価を行ないます。問題がなければパスにエントリーさせていただき、少量（通常1mg）からワーファリンを開始します。その後はプロトコル（参照、最終ページ「ワーファリン投与プロトコル」）にそってPTなどの血液検査を行ない副作用の発現を確認して次の受診をスケジュールしていきます。PT INRは目標値を1.5以上2.5未満と設定させていただきました。これは日本人の適正なPT INR値が欧米人よりも低いというエビデンスに基づいています。

参考文献：

1. “Anticoagulant Therapy after Prosthetic Valve Replacement –Optimal PT-INR in Japanese Patients–”, Ann Thorac Cardiovasc Surg 2002; 8: 83
2. “Optimal Intensity of Warfarin Therapy for Secondary Prevention of Stroke in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation A Multicenter, Prospective, Randomized Trial”, Stroke 2000; 31; 817-821
3. “Optimal Intensity of International Normalized Ratio in Warfarin Therapy for Secondary Prevention of Stroke in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation”, Internal Medicine 2001; 40: 1183-1188,

パスの運用に関して

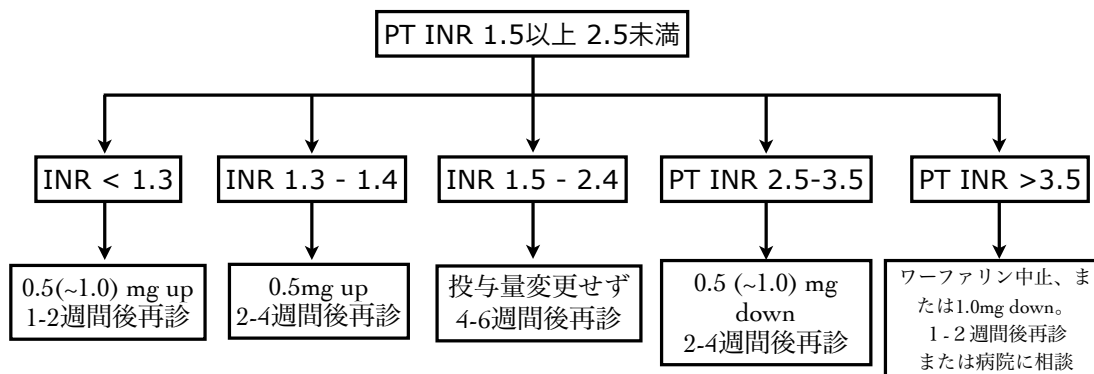
以下、各項目についてご注意頂く点を記載しておりますが、ごく一般的な問題点についてのものです。先生方には、よくご存知のことで誠に失礼とは存じますが、何卒ご容赦いただけますようお願いいたします。

1. 受診日について
受診日の記入をお願いします。網掛け部分は当院の受診日です。白抜き部分が先生方のご施設での受診日ですがパスに記載されている期日以外のご診察を制限するものではありません。短い間隔で診察された場合でも、相当する期日のみの記入で構いません。
2. 検査項目について
基本的には根幹となる検査項目はPTとCBCのみです。当院では一般的な生化学検査や脂質の検査なども行ないますのでご参考ください。
3. 胸部症状について
心房細動の症例ではとくに動悸がひどくなったり、息切れなどの心不全症状が悪化するケースがしばしば見られます。その場合は該当する項目をcheckして当院への受診をおすすめいただければと存じます。
4. 出血症状について
黒色便は消化管出血を疑うこととなりますので、すみやかに当院への受診をおすすめください。皮下出血はひどくなければ経過観察するのがほとんどですが、口腔内出血や鼻出血は耳鼻科医の止血術が有効なケースもあります。
5. 体重、水分制限について
心房細動の症例では軽度の心不全を合併していることがしばしばありますのでそれらを管理する基準としてご利用ください。
6. 胃酸中和剤に関して
ワーファリン投与患者では消化管の出血の予防はほぼ必須と思いますので、H2ブロッカーかPPIの併用をご検討ください。

パスの運用や特定の症例に関してお困りの場合はいつでも当院にご連絡ください。

文責 吉谷和泰

ワーファリン投与プロトコル



注：高値の場合はいったん中止し、全身状態のチェックを行なう。（食生活の変化、感染症）